

# 図書館通信 10月号 宇東図書館委員会

だんだんと過ごしやすい気候になってきました。これからより一層肌寒くなってきますが、本を読んでも心も体も熱くしましょう！

さて、9月に行われた第1回読書会では、ショートショート『コツをつかむ』と『海色の囃』より「月工場」を読み、感想を共有しました。今月号では、読書会の様子と図書委員のおすすめの短編集を2冊紹介します。

## 『海色の囃』より「月工場」 田丸 雅友 著



ちょっとばかり欠けた月の、皓々と照る晩。一人の酔っ払った男は、自宅の裏山の一本杉が光っていることに気が付いた。裏山へ駆けあがると、その根元にあったのは不思議な工場への入口だった。なんと、その工場では月を作っているらしい――。

読書会に参加した生徒のみなさんは、物語の共感できるところやおもしろかったところ、あるいは理解が難しかったところなど、物語を読んで感じたことを共有しました。中には、二つの物語を読み比べて、共通点を探す生徒もいました。

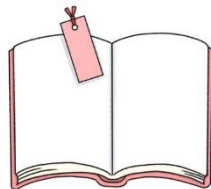
読書会に参加した生徒の感想です。

普段読む本のジャンルは大体決まっているので、いつもと違うものを読んで、気分転換になった。感想を持って読むと、普段とは違ってより深いことにも気付くことができた。たまには他の子たちと感想を共有し合う場があっても想像力が広がると思った。(2年)

読書会をしてみて、同じ話を読んでいるのに、一人一人が全然違ったところに注目していたり、違う感想を持っていたりして面白かった。短い文章だったが、とても面白かった。(1年)

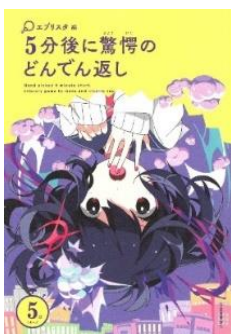
「ありえないこと」と「現実」が混ざり合った構成となっていて面白かった。読み終わった後で世界の出来事を見てみると、また違った面白い見え方になるかもしれない。(1年)

実際にある言葉やものに想像力を働かせている今回の物語は、とても新しい考え方で、読んでいて楽しかった。また、同じ物語に対する感想が少しずつ違って、人と意見を共有することは、新しい考え方を学ぶために大切な行為だと改めて感じた。(2年)



## 『5分シリーズ』 エブリスタ 編

どんでん返し、涙のラスト、癒されるラスト、など、心惹かれるテーマごとに超短編集を集めた「5分シリーズ」。たった5分という短い時間の中で、泣いたり、笑ったり、癒されたり……。あなたの知らない心躍る物語との出会いがきっとそこにあります。毎日のたった5分間、朝の読書にもぴったりの本です。



## 『海に見える理髪店』 萩原 浩 著

店主の腕に惚れて、有名俳優や政財界の大物が通いつめたという伝説の理髪店。僕はある想いを胸に、海辺の店を訪れた……。(海に見える理髪店より)

父と息子、母と娘など、儚く愛おしい家族の姿を描く全6編の短編小説です。人生に訪れる様々な喪失と向き合い、乗り越え、希望を見出す人々の姿に心打たれます。なかなか一歩を踏み出せないでいる人におすすめの1冊です。